

バドミントン競技会実施要項

1. 競技規則

本年度の（公財）日本バドミントン協会制定の競技規則及び（一社）日本障がい者バドミントン連盟制定のルール、並びに本大会申し合わせ事項に基づいて行う。

2. 参加区分

(1) 個人戦

- ①身体障がい者は、男女・年齢の区分を設けない。
- ②知的障がい者は、男女別、年齢区分別とする。
- ③精神障がい者は、男女別、年齢区分別とする。

(2) 団体戦

身体障がい、知的障がい、精神障がいの3区分別とする。

3. 服 装

(1) 運動に適した服装とする。

(2) ゼッケンは主催者側が交付するものを使用し、競技用服装の背部につける。

4. 招 集

(1) 招集は、競技場内で行い、競技進行により放送で招集するので係員の指示に従う。

(2) 招集完了時間は、試合開始の10分前とする。

5. 入 退 場

競技場への入退場は、競技役員の誘導により行う。

6. 練習時間

受け付けを済ませた後、開会式の合図があるまではコート内での練習を許可する。

7. 競技方法

【全区分共通】

- (1) 競技進行は、プログラムのとおりとする。
- (2) 個人競技終了後、団体競技を行う。
- (3) 団体戦は試合ごとにオーダー用紙を提出する。
- (4) 個人・団体戦ともトーナメントとし、3位決定戦は行わない。なお参加人数、チーム数によってはリーグ戦に変更することもある。
- (5) リーグ戦において勝敗が同率となった場合は、得失セット、得失点、ジャンケンの順で順位を決定する。
- (6) サービス権とコート権はジャンケンで決める。第3セットの11点目が先取された時点でコートチェンジを行う。
- (7) ダブルスのサービスは、サーバーの得点が0点もしくは偶数のときは右側のサービスコートから行う。サーバーの得点が奇数のときは、左側のサービスコートから行う。
- (8) フォルト（失敗）について
 - ①サービス時に、シャトルが違ったサービスコートに落ちた場合、ショートサービスラインに達しない場合、バックバウンダリーラインを越えた場合、サイドラインの外に落ちた場合。
 - ②サービス時に、サーバーの両足が定められているサービスコート内でない場合、もしくはレシーブするプレイヤーの両足がサービスされるまで対角線上のサービスコート内でない場合。
 - ③二段打ちした場合。
 - ④プレイ中、プレイヤーのラケット、身体、着衣がネットやそれを支えるものに触れた場合。ただし原則として相手方に極度に不利にならない場合は、フォルトとしない。
 - ⑤サービスしようとしてラケットに触れずにシャトルが床に落ちた場合はワンモアとする。
- (9) 1セット21点のラリーポイント制とし、すべてのセットデュースなしとする。

【身体障がい部】

(1) 個人戦

- ①シングルスで行う
- ②コート半面を使用する。

(2) 団体戦

- ①ダブルスで行う。
 - ③コート全面を使用する。
 - ②1チーム2名とし、1名の補欠を置く事ができる。
 - ④試合ごとにオーダー用紙を提出する。
- (3) 個人・団体戦とも3ゲームズマッチの2ゲーム先取により勝敗を決める。
- (4) サービス・ラリー時ともに、ネットとネットに近いサービスラインの間に落ちたシャトルはアウトとする。
- (5) シャトルは水鳥シャトルを使用する。

【知的・精神障がい部】

- (1) 個人・団体戦ともに試合はシングルスとする。
- (2) 個人・団体戦とも3ゲームズマッチの2ゲーム先取により勝敗を決める。ただし、団体戦は勝敗が決しても3試合は必ず行う。また、1チーム3名の人数を満たさない場合、試合は行うが、オープン参加（記録は公式記録とならず、順位をつけない）とする。
- (3) 団体戦は1チーム3名とし、1名の補欠を置くことができる。
- (4) シャトルは、ナイロンシャトル（メイビス350号）を使用する。